

# 木曽川水系連絡導水路とは

揖斐川源流に造られた徳山ダムに貯められた水を、上流部では坂祝から木曽川に、途中一部は岐阜市内で長良川に放流して下流部で木曽川に導水するもので、「徳山ダム導水路」とも言います。

## ①流水の正常な機能の維持

1994年（平成6年）に起こったような大渇水にも、河川環境が守られる水量を流すというものです。

具体的には、木曽川でヤマトシジミが、長良川ではアユが生存できる水量を確保するものとしていますが、科学的根拠は全くありません。この目的は、1997年名古屋市の返上した毎秒3m<sup>3</sup>（約60万人分の給水量）の水利権の引き取り手がなく、困った挙句の果てに「作り上げられた」ものです。

## ②新規利水の供給

徳山ダムの水を新規利水として導水するというものです。

名古屋市上水に毎秒1.0m<sup>3</sup>、工業用水に毎秒0.7m<sup>3</sup>、愛知県上水に毎秒2.3m<sup>3</sup>を導水する計画ですが、木曽川に大量の未利用水を抱えているので、揖斐川からの導水は不要です。

# 河村市長の突然の「方針転換」

今年2月、河村名古屋市長は、これまでの名古屋市のダムによる水資源確保は、過大で誤りであったことを認めながら、突然、徳山ダムの水を活用する「新用途」を提案し、徳山ダム導水路事業を容認する方針転換を発表しました。

## 徳山ダム導水路はいらない

2007年、徳山ダムの水を、岐阜市内で長良川に放流するという計画を知った市民は、環境悪化を心配し直ちに「長良川に徳山ダムの水はいらない！」と声を上げ23,489筆の署名を岐阜県議会に届けるなどして世論を上げ、着工を食い止めました。

愛知県では、「無駄に無駄を重ねる導水路」と住民訴訟が起こりました。2009年、河村名古屋市長は「導水路撤退」を表明。国も検証事業として事業を「凍結」し今日に至りました。

しかし、今回の市長の方針転換で、事業「継続」の動きが急展開することが危惧されます。

## 長良川を守りましょう

長良川は河口堰が運用されて以来、海と川を行き来する生き物にとって大きな障害を抱えることになりました。長良川のアユは、人の手を借りなければ子孫を残せていない状況となっています。

いま景観と生き物に無配慮の「国土強靱化」工事で、長良川は味気ない水路に変貌させられようとしています。これから気候変動による環境変化の試練も待ち受けています。長良川を守りましょう！

徳山ダムの水の導水で、宝の長良川を蔑ろにしてはなりません。

再び動き出した徳山ダム導水路  
世界農業遺産「清流長良川の鮎」は  
どうなるのでしょうか？

# 長良川に 徳山ダムの水は いらない

よみがえれ長良川実行委員会

(連絡先) 090-1284-1298 武藤



2023/5/18



# 木曽川水系連絡導水路

(上流施設 約43 km)



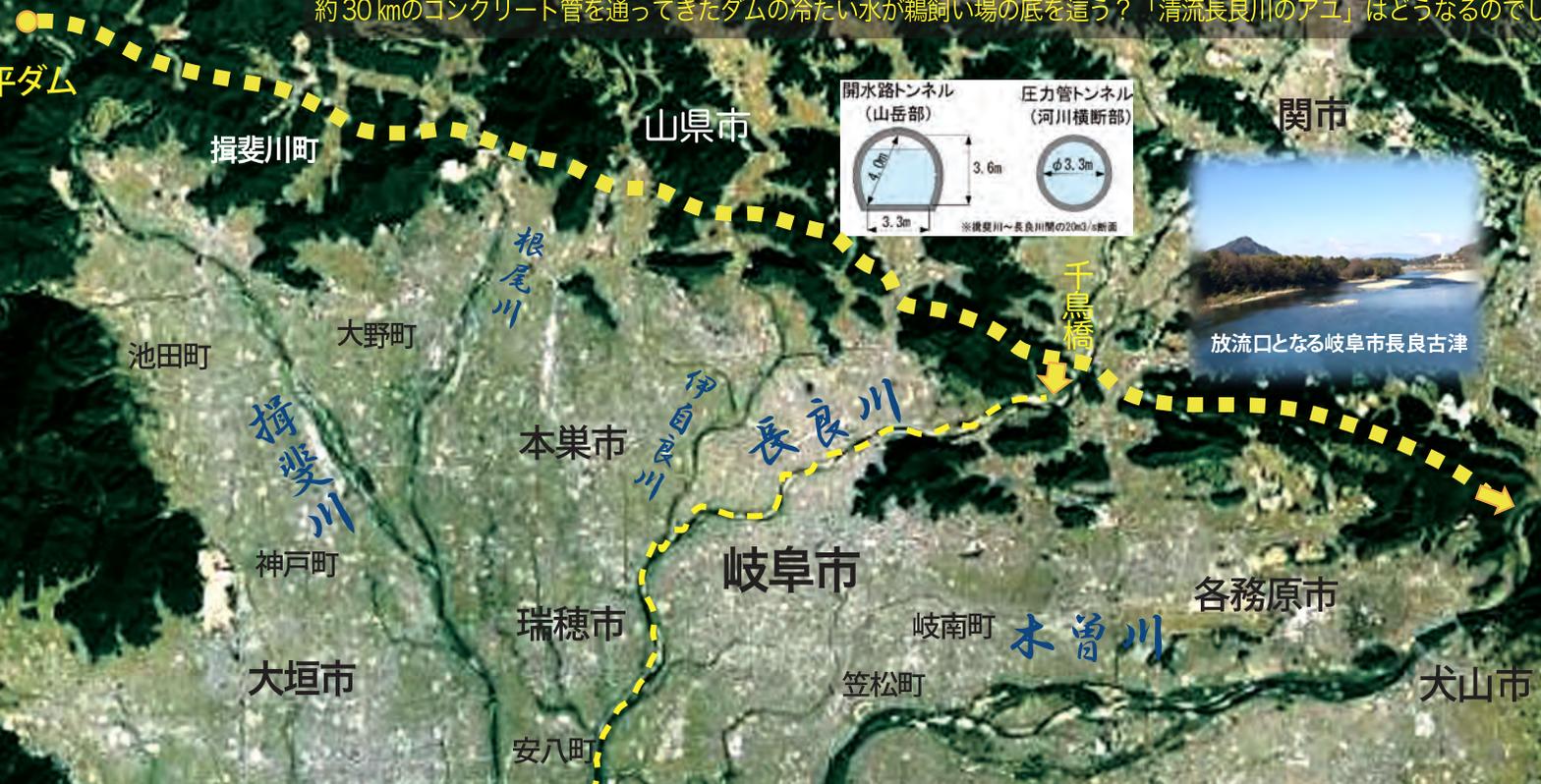
西平ダム

(下流施設 約1km)



徳山ダム導水路は、揖斐峡の西平ダム湖に取水口を設け、愛知県・名古屋市水道の犬山取水口に向かって、美濃の山河を貫きます。しかし、これらの水道は木曽川に大量の未利用水を抱えており、揖斐川の水は要りません。現在、名古屋市は一日最大給水量約80万 $m^3$ に対し、河口堰と徳山ダムをのぞいた木曽川の未利用水は、1日約80万 $m^3$ となっています。工業用水も長良川を經由して毎秒0.7 $m^3$ を大治浄水場へ流そうという計画ですが、これも木曽川の未利用水を転用すれば導水路は不要。

大湯水時の「河川環境改善」として、長良川には毎秒4 $m^3$ が流されますが、約40%の水が冷たいダムの水に占められることになります。約30kmのコンクリート管を通ってきたダムの冷たい水が鵜飼いの底を這う？「清流長良川のアユ」はどうなるのでしょうか。



## なぜ、長良川に流す？ 本当の理由

疑問の多い長良川ルート案は長良川河口堰に導水路を持たない名古屋市の「長良川を木曽川につなぐ」願望から生まれたものです。「下流施設」を徳山ダムと河口堰の導水施設として、兼用しようというのです。

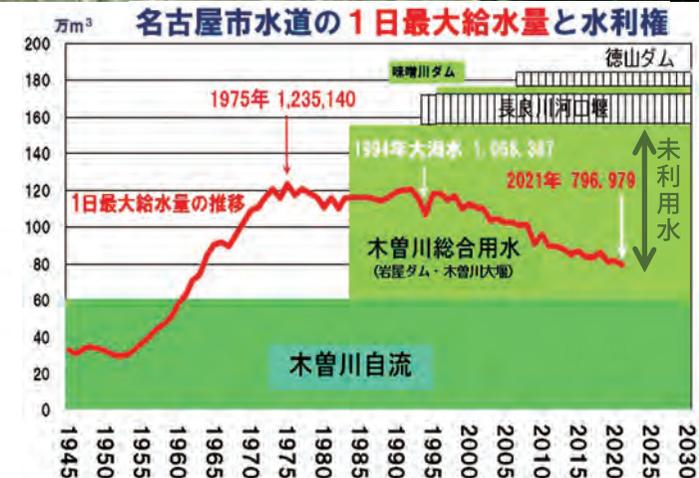
四半世紀たっても必要性が発生しない河口堰の水に、名古屋市は未練が絶えないようです。

## 湯水時、徳山ダムの水が流れたら

長良川に、冷たいダムの水が底を這うことが危惧されます。川底は、30 kmのコンクリート壁面から洗い落とされてくるものがヘドロとなり沈殿し、清流の玉石を覆うでしょう。石の藻を食んで生きるアユには厳しい環境です。徳山ダムの水で「長良川鵜飼」？千三百年の伝統が消えます。



\* 私たちの12年にわたる調査でも、導水路取水地点の水温は放水地点よりも常に低く、水温差5℃を超えることも度々。



名古屋市議会経済水道委員会資料 (2007年12月6日)